



デザインギャラリー展覧会開催のお知らせ
「金沢をブリコラージュする。糸崎公朗写真展」

2008年4月18日（金）～7月13日（日）
開場時間：午前10時から午後6時まで（金・土曜日は午後8時まで）
閉場日：毎週月曜日(ただし4月28日、5月5日は開場)、5月7日

金沢21世紀美術館デザインギャラリーでは、本年4月18日(金)から7月13日(日)まで、「金沢をブリコラージュする。糸崎公朗写真展」を開催いたしますので、お知らせいたします。



片町

写真を立体的に組み立てて3次元化するフォトモ(フォト+モデル)で知られる糸崎公朗が、金沢の路上をひたすら歩き回り、独自の視点で金沢の街を切り取ります。視点をつないでいく「ツギラマ」や、街に生息する小さな虫たちを壮大なスケールで撮影した「デジワイド」など多様な手法で表現される、視点・思考・テクノロジーの切り貼り＝ブリコラージュで、誰もが見過ごしていた金沢を表現します。

展覧会について

文化人類学者レヴィ＝ストロースが提唱したブリコラージュとは「修繕」や「寄せ集め」を語源とする言葉で、きっと何かの役に立つと思って集めていた断片を、計画の変容に応じて組み立て新たなものを作り上げることをいう。無自覚な場合、それは単なる「寄せ集め」になってしまうが、ブリコラージュは自覚することで、より高い創造性をもたらしてくれる。

「フォトモ」で知られる糸崎公朗であるが、「ツギラマ」や「2コマ写真」「路上ネイチャー」など多様な写真表現の展開はいずれもブリコラージュという言葉がしっくりくる。それは立体的に見せたり、視点をつないでいくという方法論だけでなく、ごく当たり前にある建物や街並みを「芸術のオブジェ」として捉えていくという思考の流れそのものがブリコラージュされているからだろう。糸崎が「非人称芸術」とよぶ日常に散りばめられたアート断片は、誰かの意図によって生み出されたものではなく、糸崎の思考によって再生されていく。

糸崎作品の魅力は、なんといってもその対象の猥雑さにある。とてつもない労力を払って表現される世界観が、どこの街にも在る猥雑な日常の一場面というのが、見ている者をなんとも心地よくさせる。しかも今回はすべて金沢で撮影された新作である。11月と3月という決して最良の季節とは言えない時期に撮影された金沢の隠微な日常が、路上を歩き回る糸崎の視点によって切り取られ、集められた。金沢に暮らす人にとっては、確かによく知っているリアルな金沢の風景がむきだしにされていることがかえって楽しい。異常なまでに手の込んだ記録写真が、日常の見方の愉しみ方を伝授してくれるに違いない。

金沢 21 世紀美術館
キュレーター 高橋律子

展覧会概要

- 展覧会名称： 「金沢をブリコラージュする。糸崎公朗写真展」
- 会期： 2008年4月18日（金）～7月13日（日）
休場日：毎週月曜日（ただし4月28日、5月5日は開場）、5月7日
- 開場時間： 10時～18時（金・土曜日は20時まで）
- 料金： 無料
- 会場： 金沢 21 世紀美術館 デザインギャラリー
- 出品点数： フォトモ 10 点、ツギラマ 4 点、2 コマ写真 20 点、路上ネイチャー 90 点他、
写真作品約 150 点
- 主催： 金沢 21 世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]
- 協賛： オリンスイメージング株式会社、富士フィルムイメージング株式会社
株式会社リコー
- 協力： CAAK:Center for Art&Architecture,Kanazawa



新天地

本企画の特徴

①街かどの日常から見つけ出されたオブジェ

目の前にある風景を記録しそれをリアルに捉えるために、糸崎公朗は写真を立体化するフォトモという手法を用いています。今回の展覧会では、風景がオブジェとなった約10点の“フォトモ”が展示されます。

②今を表す様々な写真表現が楽しめる

街の風景やそこに生きる不思議なものたちが、「ツギラマ」や「2コマ写真」「路上ネイチャー」など多様な写真表現の中に収められました。

③写し出された“金沢”のリアルな姿

今回は展示される作品は、全て金沢で撮影された新作。そこには、糸崎の手によってリアルな金沢の姿が記録されています。

展示作品について

フォトモ

フォトグラフ（写真）＋モデル（模型）からの造語で、写真を立体的に組み立てて3次元化する手法。写真に写るリアリティと自分の感じるリアリティのズレを解消しようとするもので、写真としての仮想的な立体表現と模型としての現実的な立体感がそこに微妙に絡まり、より感覚的な立体風景が構築される。

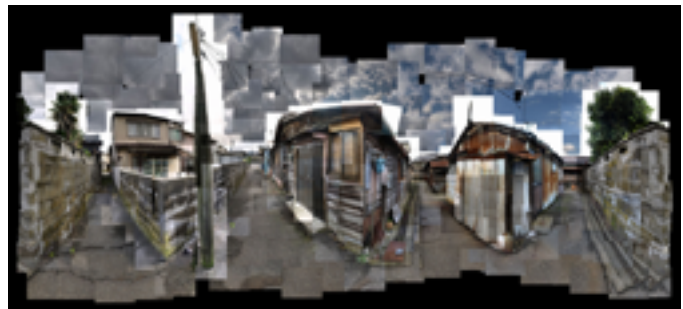
アキアカネ



木倉町

ツギラマ

糸崎が複数枚の写真から「非人称芸術」を表現し始めた最初の形態。ツギハギ＋パノラマの意味の造語で、視点を動かしながら撮影したものをつなぎあわせ、目を動かして見た感じを表現する。ホックニーの連続写真に端を発しているが、糸崎の場合は時間ではなく空間を連続写真で表現している点が大きく異なる。



京町

路上ネイチャー

路上観察において、人工物だけでなく、そこに生息する「ふしぎなもの」である昆虫を対象とすることで、路上観察＋自然観察という新たなジャンルを開拓する。巨大な昆虫ごしに見える町の風景はフォトモにも共通するニセもののリアル感があり、感覚的な揺らぎを与える。



アキアカネ

2コマ写真

発見したものの写真を、角度を変える、アップとロングで撮る、似たようなテーマを並べるなど複数枚撮ることで、その発見をより鮮明に浮かき上がらせる手法。コミックの形式も視野にいれながら、記録写真の原点に基づく最もミニマルな形態として表現される。



道路に「ドマレ」と書いてありますが…



こちらには「レ」に濁点が…読めません。

作家プロフィール

●糸崎公朗 Kimio Itozaki

1965年長野県生まれ。

東京造形大学卒業。美術家・写真家。

「非人称芸術」という独自の概念を提唱し、写真を素材にした作品を製作。

個展、グループ展、ワークショップなども多数。主な受賞に麒麟コンテンポラリー・アワード1999優秀賞、第19回東川賞新人作家賞など。

また、主な著作に『出現！フォトモ』（パルコ出版）、『フォトモの街角』『フォトモの物件』（アートン）などがある。

2007年、新手法による昆虫写真の作品集『東京昆虫デジワイド』をアートンより刊行。

<http://www.itozaki.com>



横安江町

関連企画

■ 「デジカメツギラマ大作戦」

日時:5月6日(火・休) 10:00~16:00

会場:金沢21世紀美術館 会議室1

定員:20名(小学生以上、大人の方の参加大歓迎)

料金:無料

電話予約:076-220-2811(先着順)

内容:糸崎本人が講師となりデジタルカメラを使って様々な視点から撮影した人物、建物などを切って貼って繋げ、参加者が協力してツギラマ作品を作り上げる。

■ 「オトナのためのフォトモ制作2daysワークショップ」

日時:7月5日(土)10:00~17:00、13日(日)10:00~17:00

会場:金沢21世紀美術館 会議室1

定員:15名(高校生以上)

料金:1,000円

電話予約:076-220-2811(先着順)

内容:糸崎本人が講師となりデジタルカメラを使って街を撮影し、フォトモを制作する。高校生以上が対象で、2日間の日程に参加できる方を募集。

本資料に関するお問い合わせ

金沢21世紀美術館

担当:高橋・落合

TEL:076-220-2811

FAX:076-220-2806

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

<http://www.kanazawa21.jp>

E-mail:press@kanazawa21.jp

※ 展覧会の作品写真は上記へお問い合わせください。
またインタビュー取材等ご希望の方は事前にご連絡下さい。